

<h1>HOMAS</h1> 日本語版 ニュースレター	<b>No. 57</b> 平成 21 年(2009 年)7 月 31 日発行 北海道・マサチューセッツ協会 会長 森本 正夫
	発行所 〒060-0003 札幌市中央区北 3 条西 7 丁目 道庁別館 12 階 TEL011-231-3392 FAX011-231-3666 発行人 中垣 正史 E-mail homas@siren.ocn.ne.jp
Hokkaido Massachusetts Society 北海道・マサチューセッツ協会	

## 北海道開拓の基礎を築いた指導者たち⑫

# 開拓使顧問・北海道開拓の父 ホーレス・ケプロン 一滞日 3 年 10 ヶ月・3 度にわたる長期北海道視察調査・膨大な「ケプロン報文」

### ■まえがき

1869 年(明治 2 年)7 月、明治政府の開拓使設置により、北海道の本格的な開拓がスタートしますが、1870 年(明治 3 年)5 月、開拓次官となった黒田清隆(以下、「黒田」)は、北海道の開拓や農業経営の模範を米国に求めて、1871 年(明治 4 年)4 月、マサチューセッツ州出身の米国農務省長官(農務局長)ホーレス・ケプロン(1804-1885、当時 67 歳)を開拓使顧問として招聘しました。同年 8 月、来日したケプロンの指導で、早速東京の青山・麻布に官園が設けられ、北海道に導入する作物の試作、家畜の飼育や農業技術者の養成などが行われます。ケプロンは、滞日 3 年 10 ヶ月、その間 3 回にわたり、道内各地の視察・調査に來道し、詳細な「ケプロン報文」を作成しています。

「報文」は、北海道の基本的な開発計画を提案し、札幌を首都とすること、農業開発のために高等教育機関を設置することなどを明治政府に進言しています。このケプロンの進言により、マサチューセッツ農科大学長ウィリアム・S・クラークを迎えて札幌農学校が開校(明 9, 8, 14)されます。ケプロンの提言は、すべて、北海道開拓の基礎事業、開発すべき諸産業の振興に関するものであり、その後の北海道の開拓・開発の重要な指針となるものであったといわれています。

2010 年、北海道・マサチューセッツ州姉妹提携 20 周年を迎えるにあたり、北海道開拓の父ともいわれるホーレス・ケプロンの偉大な業績とその生涯を今一度検証してみたいと思います。

### ■ホーレス・ケプロンの生立ち

父ドクター・セス・ケプロンは、1656 年ころ、英国から移住。独立戦争(1775-1783)が起きると 1781 年春陸軍に入隊。ハドソン川で実践に参加、ニューヨーク司令部に配属。1790 年除隊、マサチューセッツ州アトロボロ(ボストンの南方 100 キロ余)に戻り、再び医学の勉強をします。1790 年 9 月、アトロボロの医師ベザリール・マンの娘ユニース・マンと結婚。・・・1804 年 8 月 31 日、父セス・ケプロンの 4 男としてホーレスが生まれています。そして、父の移住(医師開業)により 2 歳-19 歳までニューヨーク州ホワイツボロで過ごしています。

その間、父は綿織物工場・毛織物工場の経営にも成功しています。(父は、1835 年死去、74 歳)。3 人の兄たちは、父の事業が成功していた時期で、それぞれ大学へ進学しましたが、「まるで台風のようにやってきた不況」のために、ホーレス・ケプロン(以下「ケプロン」)は、大学進学断念を余儀なくされ、学歴は、旧制中学程度で、すぐに父の綿布製造業に従事して各分野の十分な知識を得て、

すぐに事業に精通したといわれます。ケブロンは、1829年メリーランド州バルチモアの綿布工場の監督となり、後にベルの工場の責任者としても成功し、綿布製造業界の著名人となっていきます。

1833～34年、メリーランド州バルチモアー首都ワシントンを経る鉄道建設現場で、労務者数千人の暴動が起こった時、ケブロンは知事の依頼によって、自警団の指揮としてこれを鎮めたのです。その功績により知事は、ケブロン(30歳)を取り立て、メリーランド州の国民兵32連隊少佐に任命されます。さらにまた数千人の鉄道の暴動を鎮圧したことにより、1834年3月、中佐に任命しています。

ケブロンは、1834年、地元資産家のニコラス・スノードンの娘と結婚し、妻の所有するローレルの広大な地所で綿織物工場を経営し、1849年には、2500人を雇用しています。さらに、婦人が相続したスノードン家の土地を管理、地力の落ちた広大な荒廃地に資本を投入して、肥料を施して地力の回復に努め州第一の大規模農場に仕立て上げて科学的農業経営による作物栽培にも成功して、「農業の権威者」といわれます。1848年には、合衆国農業会副会長・メリーランド州農業協会会長となり、1850年のロンドン国際博覧会には、メリーランド州代表して出席しています。

しかし、1年前の妻ルイーザの死とともに、1840年代末からの恐慌のあおりをうけて、事業も思わしくなく、失意のどん底に落ち込んでいましたが、知人の働きかけで、1852年春、政府から北テキサス・インディアン居住地を治める特別任務の職を得て、各地で幾多の問題を適切に処理しています。

1854年、ケブロンは2年の任期を終えて、再婚した妻マーガレットや子どもたちとともにイリノイ州に移住し、再び酪農経営に取り組みます。やがて家畜の飼育者としても成功し、家畜の品評会でも度重なる入賞を果たし、全国の農業協会の役員として活動します。

1861年南北戦争が起こり、ケブロンは3人の息子と北軍に入隊。1863年(58歳)に大佐に昇進、各騎兵旅団の指揮を命ぜられます。1866年には准将(將軍)に昇任します。各地に参戦して64回の栄光に輝く戦闘に参加したといわれます。しかしこの間、長男は戦死、次・三男は負傷しました。終戦後、イリノイ州に戻りますが、牧場は荒廃して再び経営することは困難な状態になりました。このような苦境にあったとき、たまたま初代農務省長官がなくなり、その後任者として、1867年(慶応3年)、ケブロンが、合衆国農務省第2代長官(農務局長)の要職に「任命されます。彼の健全な判断力、農場経営の豊かな知識、家畜・植物・土地に対する厳正な統計的認識、そのすぐれた部下統率能力などから、その職務はまったく適役といわれました。3年半在任して、1867～1870農務省年報の他、あらゆる農作物の実験栽培、土地管理、演芸・養蚕・酪農にまで及ぶすぐれた仕事を残して、マスコミからも多くの賛辞を受けています。

#### ■明治政府の北海道開拓

明治政府は、ロシアの南下政策に対して、北方の防備のために北海道の開拓を急務としていました。それで、黒田次官の北地問題に関する建議書を1870年(明治3年)11月には、全面的に受け入れます。北海道開拓に必要なとする、開拓に長じた外国人技術者の雇用と農業機械等購入を黒田清隆(以下「黒田」)に全て委任します。その費用についても開拓使の定額以外より支出することを保障しています。

1871年(明治4年)1月、黒田は、留学生を伴って米国に向けて出発します。黒田は、当初から北海道開拓に必要なお雇い外国人を米国に求める考えであったようです。また、直接の人選の衝にあった森有礼は、気候風土の相似したニューイングランドの州を念頭においていたようです。こうして、同年(明治4年)4月、黒田は、駐米公使森有礼とともにグラント大統領と会見して、日本政府の申し出を提示します。これを受けて米国は日本の要請を承認して、開拓使顧問としてホーレス・ケブロンを推薦しています。

#### ■開拓使顧問ホーレス・ケブロン招聘

(ケプロンの提示した条件をうけて日本政府が承認した契約の概要) ～北海道こと「えぞ」は、日本の重要な領土であるが、内陸はまったく未開である。この「えぞ」の開発のために、その領土と島の農業その他の資源開発。地質・植物・鉱物の予備調査、道路・運河・町・駅の開発などの詳細な報告書を作成して提出すること。この任務のために、土木・建築・農業及び鉱業部門の主任助手を選任する。ホーレス・ケプロンの年俸は1万ドル(農務局長職は4,000ドル)。助手は3000～4000ドルとする。一行の日米往復と滞日中の生活の経費はすべて日本政府負担。さらに、家具つき住居提供、家賃・税免除。家事使用人・世話人・警備員を置く。～などの条件を提案しています。ケプロンを1871年(明治4年)5月15日に任命するも、後任の関係で大統領の承認が得られず、ケプロンが6月27日に、辞表を再提出してグラント大統領の承認を得ています。

ケプロン他3名の一行は、1871年(明治4年)8月1日サンフランシスコを出発、8月25日午後6時半横浜港に到着しました。東京での宿舎は芝増上寺の本坊が当てられました。早速、政府高官の饗宴をうけ、天皇にも謁見しています。ケプロンは来日に際し、工学・地質・鉱学関係担当の技師として合衆国農務省に勤務していたアンチセル、測量・土木関係担当の技師としてバルチモア・オハイオ鉄道に勤務していたワーフィールド、それに書記兼医師としてジョウジタウン医科大学解剖学助手・合衆国農務省図書館司書をしていたエルドリッジという優秀なスタッフを同行したのです。

ケプロン在任中のお雇い外国人の大半は、ケプロンの推薦・承認のもとに採用されたこともあり、多くのアメリカ人技術者が中心となったようです。地質・測量・鉱山のライマンや助手マンロー(1872・明5来日～)、農業・牧畜のポーマー(1871・明4来日～)やダン(1873・明6来日～)などがよく知られています。

ケプロン帰国後も、札幌農学校関係では、初代教頭・農学・化学・数学のクラーク、土木工学・数学・第2代教頭のホイーラー、化学・農学・数学・第3代教頭のペンハロー(3名、1876・明9来日～)、農学・官園監督・第4代教頭のブルックス(1877・明10来日～)、生理学・解剖学・病院医術顧問のカッター、数学・土木のビーボディー(2名、1878・明11来日～)などを迎えています。また、茅沼・幌内炭鉱のゴージョー、ダウス(2名、1879・明12来日～)、鉄道敷設・土木顧問のクロフォード(1878・明11来日～)、水産加工・魚肉缶詰製造のトリート(1877・明10来日～)などが招かれており、ケプロンを筆頭に48名の「お雇い外国人」がアメリカ人でした。

#### ■ホーレス・ケプロンの雄大な開拓計画とその業績

黒田は、明治政府の「開拓使10年計画」(明5～明14)の計画立案・事業推進のために、ケプロンの「農科大学を興すべし」の献言を受けて、まず、1872年(明治5年)3月、東京芝増上寺山内に「仮学校」を開校します。お雇い教師はほとんどアメリカ人を採用しています。(この「仮学校」が、1875年(明治8年)8月、札幌に移転して「札幌学校」(校長調所広丈)となり、翌1876年(明治9年)7月31日クラーク、ホイーラー、ペンハローの一行を札幌に迎えて、8月14日の「札幌農学校」(校長調所広丈・教頭クラーク博士)の開校へとつながります。)

ケプロンは、1871年(明治4年)9月、早速、東京に農事試験場「官園」3ヶ所設置して、アメリカから輸入した動植物を管理しました。同時に北海道の七重・札幌にも官園が設置されました。札幌では、札幌本庁敷地北側に3600坪(後に40万坪に拡大)の御手作場設け、さまざまな農作物が栽培せられ「葡萄園」「ホップ園」「果樹園」なども設けられました。その後、1876年(明治9年)には、この官園のうち、30万坪が札幌農学校農場に移管されました。

開拓使は、ケプロンの献策により、札幌市内大通一北1条・東1丁目一東4丁目を工業ゾーンとして、さまざまな「官営工場」を建設しました。現在のサッポロビールの原点でもある「開拓使麦酒

醸造所」もこの地に誕生しています。

ケプロンは1871年(明治4年)8月来日、以後3年10ヶ月日本に滞在しますが、まず8月～10月、アンチセルとワーフィールドを開拓予備調査のため北海道に派遣しています。一行は、函館から恵山岬をまわって、噴火湾を横切り室蘭に渡り、海岸沿いに勇払川、千歳方面を通って札幌着。札幌附近が全道の首府たるべき地点であることを確認しています。約2ヶ月間馬に乗って巡視し、豊平川架橋(当時は明治4年4月の仮橋)の急務、製造工場や水車の設置場所の選定、札幌室蘭間の道路計画なども含めた、北海道の気候・風土を総合的に考察した報告に基づいて、11月、「第1次報文」を開拓使に提出しています。

ケプロン自身の第1回目の道内巡検は、1872年(明治5年)5月、東京湾を出帆して、函館・室蘭を経て札幌に到着。札幌の「開拓使本庁舎」(~6年10月落成)の建築状況や製材場その他の諸工場の所在地(現在の大通り東1・2丁目附近全体の広い地域)を検分、さらに石狩・小樽を視察し、室蘭・函館を経て10月に帰京しています。

第2回目の道内巡検は、1873年(明治6年)6月出発、黒田の指示を受けて、東京の開拓使官園の試験成果を移植するために設置する、七重・札幌官園・試験場の調査、その輸送方法に関する現地調査、牧畜・耕種の適地調査、鉱山開採方法に関する調査などでした。函館・七重官園・室蘭を経由して札幌着。札幌の農作・工場を検分後、ライマンを伴って豊平川・石狩川の調査、石狩・当別視察、小樽・余市を経て岩内の茅沼炭鉱を検分、長万部・函館を経て9月に帰京しています。この第2回巡検後11月に、農業・牧畜、石狩各地炭田開発・輸送計画などを含む「第2次報文」を提出しています。

第3回目の道内巡検は、1874年(明治7年)5月出発。黒田の指示事項は、七重官園における果樹の点検と育成方法、室蘭に設置すべき木挽器械所の調査、新室蘭・札幌・小樽に予定している殖民(屯田)地の調査、札幌の種畜場・果樹・堤防の検分調査、ホロムイ・岩内石炭山の石炭採掘・運搬方法、その他鉱物の探査、浦河管内の牧畜・開墾の適地調査、漁業改良の方法調査など多岐にわたっています。函館・室蘭を経て6月札幌着。札幌近郊・小樽を調査。8月札幌発、勇払・浦河を経て、函館へ、そして8月末帰京しています。そして、1875年(明治8年)3月、ケプロンの開拓事業に関する具体的な意見や多彩な見解を総括した「開拓使顧問ホラン・ケプロン報文」を提出しています。

さらに帰国に際して、契約を延期して「報文要略」をまとめて、開拓使に提出してから、1875年(明治8年)5月23日、帰国しています。

#### ■帰国後のホーレス・ケプロン

ケプロンは、帰国後はワシントンに在住して静穏な余生を送ったといわれます。1876年(明治9年)には、ワシントン哲学会で「日本」と題する講演をし、また1877年(明治10年)西南戦争に際しては、黒田の要請(黒田は65,000ドルをケプロンに送金)に応じて鉄砲・弾薬の調達をしたり、開拓使からのいろいろな依頼に対応してなお日本に目を向けていたといわれます。晩年のケプロンにとって、日本とのきずなは貴重であったようです。ケプロンは時折、自宅に議員や各省の高官を招いて、日本から持ち帰った美術工芸品を披露するのを楽しみにしていたそうです。ケプロンの人柄は、いつも誠実で奥ゆかしい態度で人に接し、虚飾を廃した質素な生活を好んだといわれます。

1884年(明治17年)1月、日本の天皇から勲二等旭日章が授与されました。ケプロンは、勲章と日本でのケプロンの功績を書き連ねた天皇署名入りの賞状に「深い感動」をおぼえたといわれます。

そして、1年後の1885年(明治18年)2月21日、ケプロンはワシントン記念塔完成を祝う式典に出席します。その日はよく晴れていたが、風の冷たい日であったそうです。帰宅後、気分の不調を訴えたケプロンは、その翌日、80歳の生涯を閉じたのでした。

ケプロンは、開拓使顧問在任中は、黒田の信頼もきわめて厚く、職務にたいしては誠実そのものであったといわれます。しかし、ケプロンの指導による北海道開拓事業の成果にたいしては、開拓使官員や内外新聞の批判、多くの優秀な部下たちとのトラブルなどもあって、きびしい評価もあったようです。ケプロンの北海道の総合的な開発の計画・構想は開拓使に対してのみ向けられ、顧問としての職分に徹していたようです。

＜主な参考文献及び参考資料＞

□「ケプロン日誌―蝦夷と江戸」ホーレス・ケプロン著 西島照男訳 北海道新聞社 □ホーレス・ケプロン将軍―北海道開拓の父の人間像」メリット・スター著 西島照男訳 北海道出版企画センター □「ホーレス・ケプロン自伝」西島照男訳 北海道出版企画センター □「北海道を開拓したアメリカ人」藤田文子著 新潮選書 □「ホーレス・ケプロンを語る―北海道開拓の恩人―」逢坂信彦著 丸善株式会社 □「北門開拓とアメリカ文化―ケプロンとクラークの功績―」山本紘照著 文化書院刊 □お雇い外国人―開拓 原田一典著 鹿島出版会 □インターネット資料 他

**2010 北海道・マサチューセッツ州姉妹提携 20 周年記念行事予定** (2009, 7, 31 現在)

- ・ 高校生のための「通訳ガイド養成講座」(2009年6月～2010年12月) <毎月1回>
  - ・ 北海道・マサチューセッツ州姉妹提携 20 周年記念プレ・フォーラム (2009年9月19日・土) 道庁赤れんが
  - ・ コンコードカーライル高校・札幌白石高校プラスバンド合同演奏会 (2010年4月15日) 札幌市民ホール
  - ・ 20 周年記念 マサチューセッツ州訪問団の派遣 (2010年10月中旬・8日間) <日程未確定>
- 今回は、ジョン万次郎記念館訪問、ホーレス・ケプロン墓参なども予定しています。

**ご挨拶 在ボストン日本国総領事館総領事 辻 優**

北海道・マサチューセッツ協会のみなさまこんにちは。在ボストン総領事の辻 優 (つじ まさる) と申します。日頃より、北海道とマサチューセッツ州の交流にご努力を頂いている皆様の懇意に心から感謝申し上げます。来年は北海道とマサチューセッツ州が姉妹提携を結んでから20周年にあたる記念の年であり、総領事館としても同記念年を盛り上げるためのできる限りのご協力及びご支援をさせて頂きたいと思っています。どうぞよろしく願い致します。



1990年の姉妹提携以来、マサチューセッツ州と北海道の間ではさまざま交流が実施されてきたと承知しています。しかし、みなさまご存じのとおり、姉妹提携以前より北海道とマサチューセッツ州には約130年の交流の歴史があります。北海道開拓のために明治維新下の日本政府の強い要請を受けて訪日したウィリアム・クラーク博士が残したことば「少年よ、大志を抱け！」は大変有名です。しかし、北海道の方を除けばクラーク博士がマサチューセッツ州出身であることをご存じの方は残念ながら少ないのが現状です。米国でもクラーク博士が日本に滞在したことがあることはほとんど知られていません。ここにもマサチューセッツ州と日本との交流を一層促進する意義があると思います。来年の北海道・マサチューセッツ州姉妹提携20周年を機にますます相互の交流が盛んになり、相互理解が深まることを願っています。

## 資料 平成21年度 北海道・マサチューセッツ協会 総会

日 時 平成21年5月21日 15:00～16:20

会 場 道庁別館 12階 会議室

### □平成20年度 北海道・マサチューセッツ協会事業実績

#### 1. 会員加入状況

この数年、会員が減少の傾向にあるので、会員の増員、特に若い世代の会員勧誘につとめている。

#### 2. 会 議 平成20年5月13日(火) 理事会・総会 於北農健保会館3階会議室

#### 3. 広報活動 「HOMAS」ニューズレターの発行 第54・55・56号

#### 4. 行 事・関連行事

##### (1) 総会・日本舞踊

平成20年5月13日(火) (藤扇流日本舞踊・藤扇 千女)

##### (2) 北海道を知る歴史発見の旅シリーズ

第1回 5月24日(土) 円山八十八ヵ所・北海道神宮コース

第2回 7月23日(水) 三角山～大倉山新コース

第3回 8月12日(火) 時計台・大通公園散策・札幌市資料館コース

第4回 9月13日(土) 藻岩山三十三ヵ所登山・昼食会 **中止**

第5回 11月12日(水) 知事公館・ミニ大通・道庁赤れんが庁舎コース

##### (3) 国際交流ランチセミナー

第1回 6月28日(土) <北大構内散策：レストラン「エルム」>

第2回 10月25日(土) <ハロウィーン：すみれホテル> **中止**

第3回 2月14日(土) <バレンタインデー：レストラン「みもぎ」>

##### (4) 2008 ボストン美術館浮世絵名品展・ピカソ展鑑賞ツアー

平成20年10月17日(金)～19日(日) 東京3日間

#### 5. 交流事業

##### ○ マサチューセッツ州関係訪問団の受け入れ

(1) 第4回ノーブルズ高校短期交換留学プログラム(12名) 6月27日(金)～7月17日(木)

(2) コンコードグループ(8名) 6月29日(日)～7月7日(月)

(3) 「ロバート・ハニーサッカー バリトンリサイタル」 12月29日(月)

(4) バークリー音楽院「北海道グループキャンプ」 3月29日(日)～4月4日(土)

#### 6. 資 料 本道とマ州の関係資料・情報等の収集

## □平成20年度 一般会計 収支決算書

### I 収入

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	摘 要
会費	2,800,000	2,801,500	1,500	
個人会費	550,000	586,500	36,500	
法人会費	2,250,000	2,215,000	35,000	
助成金	0	0	0	
広告収入	100,000	90,000	10,000	
雑収入	5,000	43,098	38,098	利息・歴史発見の旅他
前期繰越金	185,570	185,570	0	
合計	3,090,570	3,120,168	29,598	

### II 支出

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	摘 要
事業費	225,000	159,912	65,088	
会報発行費	70,000	58,151	11,849	会報3回(印刷・送料)
セミナー開催費	60,000	25,000	35,000	ランチセミナー3回
情報収集費	5,000	3,403	1,597	参考文献
特別会計操出金	60,000	48,500	11,500	美術鑑賞の旅
訪問団受入費	30,000	24,858	5,142	小グループ受け入れ
会 議 費	3,000	105	2,895	理事会・総会
運営費	2,850,000	2,692,477	157,523	
事務費	500,000	483,431	16,569	事務用品費・通信費
人件費	2,350,000	2,209,046	140,954	職員費・通勤手当・社会保険料等
予備費	12,570	0	12,570	
合計	3,090,570	2,852,494	238,076	

### III 差引残高

3,120,168      -2,852,494      =                      267,674

## □平成21年度 北海道・マサチューセッツ協会事業計画書

1. 会 員 この数年、会員が減少の傾向にあるので、会員の増員と会の活性化に務める  
(役員・一般会員にも、特に若い世代の会員勧誘にご協力をお願いしたい。)
2. 会 議 2009年5月21日(木) 平成21年度 理事会・総会  
(道庁別館12階 会議室)
3. 広報活動 「HOMAS」ニューズレター 第57・58・59号の発行
4. 行 事
  - (1) 国際交流セミナー (3回)
    - 6月27日(土) 第1回 国際交流ランチセミナー <レストラン「エルム」>
    - 10月24日(土) 第2回 国際交流ランチセミナー  
<ハロウィーンパーティー：すみれホテル>
    - 2010年2月13日(土) 第3回 国際交流ランチセミナー<レストラン「マイヨール」>
  - (2) 北海道を知る歴史発見の旅シリーズ (3回)
    - ① 5月23日(土) 円山八十八ヶ所登山と円山公園・北海道神宮境内歴史解説コース
    - ② 7月30日(木) 手稲山鉾山歴史解説・石屋製菓見学コース
    - ③ 9月5日(土) 藻岩山33ヶ所霊場登山と歴史解説コース
  - (3) 2009名古屋ボストン美術館ゴーギャン特別展鑑賞・お伊勢参りツアー  
2009年6月5日(金)～7日(日) <3日間> 旅行代金 (65,000円)
  - (4) 2010年姉妹提携20周年記念行事<2010年にむけて>
    - ① 高校生のための「通訳ガイド養成講座」の実施 (2009,6～2010,12、毎月1回)
    - ② マサチューセッツ州の高等学校との「Eメール国際交流プログラム」の推進
    - ③ 北海道・マサチューセッツ州姉妹提携20周年記念プレ・フォーラムの開催
    - ④ 2010年マサチューセッツ州訪問団の派遣
    - ⑤ その他
5. 交流事業
  - 2009年4月16日(木)～4月19日(日)  
米国マサチューセッツ州コンコードカーライル高校一行(生徒17、先生5)来札
  - 2009年7月3日(金)～7日(火)  
同 コンコードグループ(6名)来札 (下見打合せ)
6. 資料収集  
本道とマ州の関係資料・情報の収集

□平成 21 年度 一般会計 収支予算書

I 収入

(単位：円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	摘 要
会費	2,550,000	2,800,000	250,000	
個人会費	550,000	550,000	0	
法人会費	2,000,000	2,250,000	250,000	
助成金	0	0	0	
広告収入	70,000	100,000	30,000	
雑収入	30,000	5,000	25,000	預金利息他
前期繰越金	267,674	185,570	82,104	
合計	2,917,674	3,090,570	172,896	

II 支出

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	摘 要
事業費	205,000	225,000	20,000	
会報発行費	60,000	70,000	10,000	会報3回(印刷・送料)
セミナー開催費	50,000	60,000	10,000	ランチセミナー3回
情報収集費	5,000	5,000	0	参考文献
特別会計操出金	60,000	60,000	0	名古屋ボストン美術館の旅
訪問団受入費	30,000	30,000	0	小グループ受け入れ
会 議 費	3,000	3,000	0	理事会・総会
運営費	2,700,000	2,850,000	150,000	
事 務 費	500,000	500,000	0	事務用品費・通信費
人 件 費	2,200,000	2,350,000	150,000	職員費・通勤手当・社会保険料等
予備費	9,674	12,570	2,896	
合計	2,917,674	3,090,570	172,896	

# 平成21年度 第1回 国際交流ランチセミナー記録

## ～ 異文化理解のふれあい ～

日時 平成21年6月27日(土) 11時00分～14時00分  
会場 北大構内 レストラン「エルム」(札幌市北区北11条西8丁目)

### <ゲスト>

陳 依 汎	( チン イハン )	北海学園大学留学生	(台湾)	F
頼 怡 瑄	( ライ イセン )	北海学園大学留学生	(台湾)	F
趙 美 賢	( チョウ ミヒョン )	北海学園大学留学生	(韓国)	F
賈 凡	( グウ ハン )	小樽商科大学留学生	(中国)	F
刘 杯 明	( リュウ ハイミン )	小樽商科大学留学生	(中国)	M
叶 静	( イェ チン )	小樽商科大学留学生	(中国)	F
Ms. Belomestnova Marina	(ベロメストノワ マリーナ)	小樽商科大学留学生	(ロシア)	F
Mr. Alberts Timo	(アルベツ ティモ)	小樽商科大学留学生	(ドイツ)	M
Ms. Lee Gillian	(リー ジリアン)	小樽商科大学留学生	(イギリス)	F
Mr. SENG Sochan	(セン ソーチャン)	JICA 海外技術研修員	(カンボジア)	M
Ms. POL Mardi	(ポル マルディ)	JICA 海外技術研修員	(カンボジア)	F

概要: この国際交流ランチセミナーは、マサチューセッツ州とのつながりに基本理念を置き、2001年(平成13年)から、広く多国籍の北海道在住外国人をゲストとしてお招きして、国際交流や異文化理解の楽しい時間を共有しています。北海学園大留学生3名、小樽商科大留学生6名、札幌国際センターのJICA海外技術研修員2名など合計11名のゲストをお迎えして、国際色豊かな楽しい時間となりました。(通訳は、毎回、当協会会員・岩崎 修子さんをお願いしています。)今回は24回目です。

ここには紙面の都合で、各国ゲストのスピーチの1部をご紹介します。今回の参加者は、合計38名でした。

### 1 マリーナ (ロシア・女性)

こんにちは。マリーナ・ベロメストノワと申します。ロシアから来ました。小樽商科大学の留学生です。日本文化については、子どもの頃、初めて日本に来たときから興味を持っていました。大学では日本語と日本文化について学んでいます。ロシアの文化と日本の文化はもちろん違いますが、着物やお花、お茶などの日本文化には大変興味があります。日本での経験は私にとって大変貴重な機会となっております。また将来チャンスがあったらぜひもっと長く滞在したいと思います。今日は皆さんと楽しくお話できてとてもうれしく思っています。私の故郷はウラジオストックですが、ロシアの極東部で、中国、韓国、日本とも、近い位置にあります。ですから、皆さん、機会があったらぜひウラジオストックにも来てください。今日はお招きいただきありがとうございます。ございました。

### 2 マルディ (カンボジア・女性)

マルディと申します。まず、最初に北海道マサチューセッツ協会にお礼申し上げます。このような機会を設けてくださってありがとうございます。私はカンボジアから来ました。皆様ご存知だ

と思いますが、カンボジアは東南アジアにある国です。私は去年大学を卒業したばかりで、情報通信工学をカンボジアで勉強していました。こちらには6月の初めに来たばかりです。ですからまだ一ヶ月しか経っていません。

札幌では北大大学院の修士課程で、さらに勉強を続けていきたいと思っています。現在は札幌のJICAセンターに滞在しています。少しカンボジアについて紹介いたしますと、カンボジアはクメール語が母語です。30年くらい前まではクメール語でしたが、現在は英語となっています。こちらに来て、私は札幌が大好きになりました。というのも、大都市でありながら、周りに豊かな自然がいっぱいあるからです。

最後にもう一度、北海道マサチューセッツ協会に感謝申し上げます。様々な国から来ているたくさんの方たちと知り合いになれて、またいろいろなことをお話できるこのような機会はたいへん素晴らしいと思います。

### **3 アルベツ (ドイツ・男性)**

こんにちは。最初に、皆様とこのようにランチをとりながら楽しくお話できることにお礼申し上げます。私はドイツから来ましたティモと申します。24歳です。経済学を学んでいます。日本は世界第2の経済国ですので、興味をひかれ、文化的、経済的な関係を勉強することとなりました。大勢のドイツの学生が外国で学んでいます、アメリカ、英国、スペインなどに行くことが多いので、日本というのはまだとても特別なものがあります。

1年のプログラムで日本に来て、9ヶ月となりました。そんなわけで、たくさんの日本の方とお話する機会ができました。皆さんは、ドイツは高品質の車・おいしいビールで有名だといってくれます。でも驚いたことに、日本もまさにそのとおりだということがわかりました。それが私の発見した日本とドイツの最大の共通点ですが、どちらの国の人も進取の気概に富む国民だと思います。両国とも輸入に依存し、ですからそのために新しいことに取り組んでいかなければなりません。そういう点で日本とドイツは大変似ていると思います。私は、この8月にはもう日本を離れなければなりません、これが日本での最後の滞在になるとは思っていません。必ず戻ってきます。では、皆様良い週末をお過ごしください。ありがとうございました。

### **4 ライ (台湾・女性)**

皆様、こんにちは。ライ・イセンと申します。台湾から来ました。中国文学と日本語を勉強しています。皆様にお会いできてうれしく思っています。(日本語で)私は緊張しています。北海道はとてもいいところだと思います。とっても住みやすいし、景色もきれいだし、私は北海道がとても好きです。

札幌での経験についてお話したいと思います。私の国ではカラスはあまりいないので、ですから札幌で見たときはびっくりしました。怖かったです。それでも、私、北海道がとてもいいところだと思います。ありがとうございました。

### **5 カハン (中国・女性)**

皆様こんにちは。最初にこのような機会を提供して下さったことに感謝を申し上げます。おいしい食事を楽しみながら、いろいろな人たちと、とくに私のテーブルに座っているすてきな人たちと知り合うことができました。私は賈凡(グウハン)といいますが、日本の方にとって私の名前とは

でも発音が難しいと思いますので、どうぞ「モモ」と呼んでください。私の大学は蘭州大学(ランチョウターシュエ)といます。中国西部の甘肅省にあります。私の生まれ故郷は山西省の運城市です。中国の甘肅省にも山西省にも海がありませんので、現在、小樽に住んで毎日海が見られるのはとても嬉しいです。日本での自然環境がとても気に入っています。東京や京都もいつか行ってみたいと思いますが、ここでの環境がとても気に入っています。またゴミの分別にも驚きましたが、大変いいことだと思いました。

いろいろな方、様々な国から来た方達と文化交流を行いたいと思います。ですから、中国に興味のある方、中国に行きたいという方はぜひいらしてください。いろいろな文化の違いについてお互いに教えあいたいと思います。特に、私のテーブルの彼女(と、指をさす)、ぜひ、といっていました。蘭州大学には、小樽商大と交換留学プログラムがあります。それで私もこちらに来ることができました。もう8月には帰らなければならないのですが、最後のこちらでの滞在を楽しみたいと思います。また絶対こちらに戻ってくるつもりです。どうもありがとうございました。

## **6 テン (台湾・女性)**

皆様、こんにちは。私はテンと申します。台湾から来ました。中国語と日本語を専攻しています。私は、日本語が好きなので、日本語を勉強するために日本に来ました。(以下日本語で)これからは日本語で話したいと思います。私は日本に来てからもうすぐ2年になります。日本に来てはじめて雪を見たり、札幌の四季の変化を見たりして、とても札幌が好きになりました。台湾はとても暑い国です。私は暑いのはちょっと苦手なので、札幌での涼しい感じが好きです。いろいろ、日本での経験はいい経験になると思います。

## **7 チョ ミヒョン (韓国・女性)**

皆さま、こんにちは。チョ・ミヒョンと申します。韓国から来ました。皆様にお目にかかれて嬉しいです。(日本語で)私は英語が苦手なので、これからは日本語で話しますね。私は今年4月に日本に来ました。まだ3ヶ月しかたっていないんですけど、その間いろんな経験がたくて、いろんな人と出会ったり、いろんな日本の文化、例えばお茶とか空手とかいろんな日本の文化をやってみました。いろんな人と出会いながら感じたのは、札幌の人というか、日本の人はみんな、優しくて、いろんなところに気を使ってくれる人たちだと思いました。

特に、私は今、日本語を勉強しているので、日本語と韓国語の比較をしていますと、韓国語と日本語は同じところがとても多いのです。でも、違うのは、韓国語は、ストレートに言うことが多いのですが、でも日本語では、自分の話を柔らかくして話すということを、こちらに来て勉強しました。これからもいろんな文化の違いを感じるとは思いますけど、でもそれなりに面白いし、楽しいし、これからもいろんな人と出会いながら、楽しい留学生生活を過ごして、来年いい思い出をいっぱい持って韓国に帰りたいと思います。ここに招待して下さってありがとうございます。本当にいい時間を過ごしました。これからもどうぞよろしくお願いします。

## **8 リー (イギリス・女性)**

皆様、こんにちは。私は「ジル」と申します。イギリスから来ました。イングランドの北にあるシェフィールド大学でビジネスと日本語について学んでいます。シェフィールド大学には日本の大学20校と留学交換プログラムがあります。例えば神戸大、横浜大、東大、成城大、ICUなどです。

でも北海道には1校しかなくて、それが小樽商大です。北海道に来ることを選んでよかったと思います。実はこれが初めての来日ではありません。5年前、高校生のときですが、群馬県の桐生市に1週間ホームステイしたことがあります。大変楽しい経験でした。今回こちらに来ましたのも、5年前の経験があったので、もっと日本語を勉強したいし日本に行きたいと思ったからです。これが大学で日本語を勉強したいと思った大きな理由です。というのもシェフィールド大では3年生は、今私は3年生なのですが、日本へ行かなくてはならないからです。今回、そんなに違和感なく小樽で生活しております。私の両親とも中国系ですから、幼いときから箸を使うのにも慣れていましたし、

今住んでいる小樽市に関しても、小樽とシェフィールドはとても似たところがあるからです。一番の違いは気候です。シェフィールドはとても雨の多いところですが、雪はそんなに降らないのです。ですから、6ヶ月間も雪が降るといのはすごすぎますが、面白く思っています。こちらに来ていろいろな経験をしましたが、中でもスキーができたのは大変楽しかったです。なかでも一番思い出に残るのは、日本人、外国人留学生を含めているいろいろな人と出会えたことです。今日のようにいろいろな人と出会えるというのがそのいい例だと思います。そのことで、特に北海道マサチューセッツにお礼を申し上げたいと思います。どうもありがとうございます。

## **9 イエ チン (中国・女性)**

皆様、こんにちは。中国から来ましたイエ・チン(叶 静)と申します。どうぞ日本語読みの「しずか」と呼んでください。今は、留学生として小樽商大に通っていますが、「モモ」と同じく、蘭州大学の学生です。蘭州大学は古い大学で、今年10月に100周年を祝います。専攻は経済で、それが経済学のクラスも提供している商大に来た理由です。今いろいろなクラスで学んでいます。私の生まれ故郷の町は、上海市の近くにありますが、大変美しい山があります。皆さんに「餃子を作るのか」とよく聞かれるのですが、中国南部では餃子を自分たちでは作りません。店で買います。私は、実は餃子の作り方を、小樽にきたから中国人の友達から習いました。(笑)

私の故郷について紹介したいと思います。ホアンジャン(黄山)というところです。「イエローマウンテン」という意味で、大変美しいところです。黄山は世界遺産にもなっています。先週、NHKの番組でも紹介されました。黄山市の「市」は小樽市の「市」と同じですが、名前に山がついているように、他にも山がたくさんあります。小樽にも、北海道にも山がたくさんあり、自然が近くにあるので、こちらに来てあまりホームシックにかからないし、こちらが故郷のような感覚になっています。日本の食べ物も大好きです。一番好きなのは「おもち」、そして「お味噌汁」も好きです。交換留学生なので一年の滞在となります。もう8月には帰らなければなりません。日本の文化をいっぱい経験して、もっといろいろな人に出会いたいです。今日はおいしい食事をありがとうございました。(中国語で)謝謝。

## **10 リュウ (中国・男性)**

皆さん、こんにちは。リュウと申します。中国から来ました。こちらに来る前に、友達から日本文化と中国文化は似通ったところがたくさんあると聞いていましたが、確かにこちらに来てみてたくさん似たところがあると分かりました。違いについては口を閉じていようと思います。こちらで日本人と中国人と一緒に何かをやるということも多いのですが、国は違ってもいろいろと話したりして楽しんでいます。日本人は大変勤勉です。なぜ日本がこのように経済的に発展をとげたかということがわかりました。こちらにきてひとつとても困ったことは、日本人がとても勉強好きだとい

うことです。追いついていくのが大変ですから、そこは、私自身ががっかりしました。最後に私のテーブルに座っていた方々、ありがとうございました。とてもいい雰囲気の中で楽しくお話することができました。ご静聴ありがとうございました。

### **1.1 チャン (カンボジア・男性)**

最後になってしまいましたので、もうあまりお話することが残っていません。最初に、このような会を催してくださった北海道マサチューセッツ協会に感謝申し上げます。違う文化を学ぶ機会はとても大切だと思います。もちろん「外国」に住む私たちにとってその国の文化を学ぶことは重要です。カンボジアも日本も同じアジアの国ですが、いろいろなことがとても違っています。こちらでは全て現代的なので、ここでの生活を楽しんでいます。実は、日本人とのコミュニケーションにはすこし難しいところがあって、というのも、日本人はあまり英語を話せる人が少ないからなのです。ですから、私ができるだけ早いうちに日本語を話せるようになりたいと思っています。最後に、皆様方に感謝を申し上げたいと思います。いい時間を過ごすことができました。皆様のいろいろな経験を聞くことができました。楽しかったです。お会いできて嬉しかったです。どうぞよい週末をお過ごしください。



## ボストン美術館収蔵品となる高い評価を受けたキルト作品

寄稿 テキスタイルアーティスト 斜里町在住 長野 富江(北海道・マサチューセッツ協会会員)

2007年1月、ボストン美術館のテキスタイル部門の学芸員パメラさんに、私のオーストラリア・ツアーのカタログを見ていただく機会を持ちました。その後、2007年12月、テキスタイル部門の3人の学芸員が直接私のキルトを鑑定しました。彼らの評価は私の想像をはるかに超えた素晴らしいものでした。

打ち合わせは継続し、2008年12月、ボストン美術館から「パーマネント・コレクションにしたい」というお話を頂く事ができました。美術館のコレクションになるまでのプロセスは多くのステップが必要でしたが、10年前から私の展示企画に関わってくれていたニックさんがそれらに関わるすべてのことを助けてくれました。海外での個展の準備などはオーストラリア・ツアーで2年間経験しましたが、コレクションに迎えられることは始めてでしたので、時には辛抱強く次のステップを待たなくてはならず「はらはらドキドキしながら」搬入する日を迎えました。

2008年12月5日…その時が来ました。私のキルト「Two Heart in Harmony」10作品が美術館のコレクションに納められました。北海道の開拓者だった祖父母の開拓当時の古着物を母から譲り受け、それらをキルトに作り替えたことから始めて、今年で25年になりました。続ける…ということから多くのことを学びながら、「こうなりたい」と思う自分の夢を信じてひたすら針を運んできた自分の人生に、余りある結果を得られたと思っています。十年一昔と言っていた時代は終り、「一年一昔」のスピードで世の中が動いているように感じます。カチッとクリックするだけで世界中がつながっています。私も今やコンピュータ無しの暮らしは困難です。

2009年4月、ついにボストン美術館のWebsiteで私の作品が掲載されました!…ぜひ多くの人に見ていただけたらと願っています。

([http://www.mfa.org/collections/search\\_art.asp?coll\\_keywords=TOMIE+NAGANO](http://www.mfa.org/collections/search_art.asp?coll_keywords=TOMIE+NAGANO))

もし、ボストン美術館に滞在する機会がありましたら、ぜひメインエントランスの壁に掲げられている「ベネファクターの銘板」も見てください。「メジャー・ベネファクター」そこには私の名前も掲げられています。そのことは私にとって大変名誉なことと誇りに思っています。

現在、私は斜里町にあるスタジオで制作活動 continuéしながら5月から6月末までスタジオの一般公開をしています。



ボストン West Roxbury のアパートにて製作中



ボストン美術館レセプション会場にて

### 第3回 名古屋ボストン美術館の旅 実施報告

2009年6月5日(金)~7日(日) ボストン美術館展とお伊勢参りの2泊3日

—名古屋ボストン美術館見学(金山)—(伊勢市シティホテル泊)—お伊勢参り(内宮・外宮)—

—(名古屋駅前・キャッスルプラザホテル泊)—徳川美術館・徳川園山車揃えなどを見学

#### コース概要

○第1日は、小雨が音も無く降り続いていました。名古屋ボストン美術館の横井正彦広報部長が「北海道・マサチューセッツ協会」を迎えてくれました。うれしい再会でした。

「ゴッゲン展」は、何度目かの出会いで納得の感動でした。来年またボストンで再会します。「ノリタケデザイン100年の歴史」の、1904年(明治37年)創業から今日までの苦節の歴史には、目からウロコの感動を禁じ得ませんでした。今後は「ノリタケ」をもっと大切にしたいと思います。

**名古屋ボストン美術館** 米国マサチューセッツ州のボストン美術館(Museum of Fine Art, Boston)は、1870年創立、所蔵美術品50万点をこえるといわれる世界屈指の美術館で、その質の高さと数量は世界一の規模と評されています。名古屋ボストン美術館(1999年4月17日オープン)は、その姉妹館として、米国ボストン美術館が誇る膨大な収蔵品の中から厳選された作品の数々を、毎回テーマを変えて紹介している新しいスタイルの美術館です。あのすばらしいボストン美術館そのものの美術鑑賞を楽しむことができます。今回の「ゴッゲン展」(2009年4月18日~6月21日)も、日本初公開の大作を含む特別企画展です。

今回「名古屋ボストン美術館開館10周年記念ゴッゲン展鑑賞」と合わせて「ノリタケデザイン100年の歴史」展を鑑賞できたことは大きな収穫でした。いい一日でした。

○第2日は、小雨模様から次第に好天の1日となりました。「伊勢神宮」は、第11代垂仁天皇(西暦紀元前29年即位)の御世の創建ですから、日本最古の聖域として、今日まで2000有余年の歴史を生き続けています。次の和歌は、約1000年後に参拝した西行法師(1118-1190)の感慨です。

#### 何事のおはしますかは知らねどもかたじけなさに涙こぼる (西行法師「山家集」)

2000年後の現代、私たちが、古代からの多くの先人が歩いた同じ玉砂利を踏みしめながら歩いていると思うとなにか身のひきしまる思いがしました。

わが国の歴史は、高天原(たかまがはら)の主神アマノミナカヌシノカミ(天之御中主神)の出現からはじまります。…<別紙プリント「古事記ショートストーリー」割愛>…日向の国高千穂の峰への天孫降臨の後、何代目かのカムヤマトイワレヒコノミコト(神倭伊波礼毘古命)が、15歳で皇太子となり以後30年間高千穂の宮で政を行います。45歳の時、軍議により東征に出発します。…<別紙プリント「神武天皇・倭建命の東征路」割愛>、現在の宮崎県 美美津港から出発して7年間かけて、北九州・瀬戸内海各地の苦しい戦いの後、現在の和歌山県から上陸、ヤタガラスに導かれて大和の国に至り、橿原に宮殿(現在の「橿原神宮」)をつくって、52歳で第1代の「神武天皇」に即位したのです。西暦紀元前660年とされています。それから、ずうっと現代の125代の今上天皇(平成天皇)まで続いてきています。わが国は、神話そのまま歴史として現代につながっている「神の国」ということになります。史実はともかく、お話としてはとても面白いですね。今回は、「お伊勢」を巡って大変勉強になりました。

[第12代景行天皇皇子、日本武尊(倭建命)が熊襲征伐・蝦夷征伐の後、大和へ帰り着くことができず、薨去された不遇の生涯は、物語としてもとても面白いです。機会があれば勉強したいものです。]

**お伊勢参り** 伊勢神宮(内宮)は、第10代崇神天皇・第11代垂仁天皇の御世(西暦紀元直前)に皇女倭姫命によって創建されたわが国最古のお宮です。天照大神をおまつりしています。そして外宮は、その約

500年後の第21代雄略天皇(西暦400年代後半)の御世に、天照大神にお仕える(食事を司る)神として、丹波の国から豊受大神をお迎えして、おまつりしたお宮です。

外宮では、御正殿に参拝し、1161~3年に平清盛が天皇勅使として参拝した折の「清盛楠」にもご対面しました。内宮では、宇治橋(平成25年遷宮のため仮橋)を渡り、御正宮に参拝後一周して、遠く荒祭宮を遙拝し、2000年の太古が現代に息づく聖地を歩きました。おはらい町おかげ横丁の「ふくすけ」の伊勢うどん、「赤福本店」の赤福が本当に美味しかったです。それから、神宮徴古館・農業館・神宮美術館を見学、さらに伊勢神宮を創建した倭姫命をまつる倭姫宮も参拝しました。すばらしい充実の日でした。

○第3日は、朝から快晴、気温29度でした。伊勢神宮参拝のご利益でしょうか。参加者8名全員がラッキーな1日となりました。望外の幸せですね。全員が、徳川美術館・蓬左文庫を見学して、奇しくも徳川園の1年に1度のお祭りに遭遇し、「徳川園山車揃え」のすばらしいからくり人形を載せた大型の山車5基のパフォーマンスをじっくりと見学することができました。

徳川美術館なごや観光ルートバスにみんなに乗ったのが幸運でした。徳川美術館・蓬左文庫・徳川園で心豊かな時間を過ごし、さらに年一度の「徳川園山車揃え」というお祭りを見物できました。日本が世界に誇る古典芸のひとつ、「からくり人形」はほんとうにすばらしいものでした。



〔写真上〕名古屋ボストン美術館 ロビーにて



〔写真右〕伊勢市駅前：外宮参道入り口  
大燈籠を背にして

## 高校生のための「通訳ガイド養成講座」がスタートしました!!

### TOUR GUIDE & INTERPRETER COURSE for High School Student

#### 高校生のための通訳ガイド養成講座の概要

— 国際交流に関する学習と実践英会話教室 —

2009年6月開始～2010年12月(第1期20回の予定)

北海道・マサチューセッツ州姉妹提携20周年にむけて、国際交流の即戦力となる高校生の育成をめざして、米国マサチューセッツ州および北海道の歴史や国際交流に関するレクチャーと札幌の文化・歴史をふまえた実践英会話の「通訳ガイド養成講座」を継続的に実施します。

- 期 日 毎月1回(～2回) 土曜日 10:00～12:00  
会 場 札幌市社会福祉総合センター3階会議室(札幌市中央区大通西19丁目)  
内 容 専門的なスタッフによる英会話を主とするプログラム  
講 師 外国人講師 Mr. Stephen Underwood (英国人)  
日本人ボランティア講師  
新藤 五郎 (Mr. Goro Shindo) 岩崎修子 (Ms. Nobuko Iwasaki)  
中垣 正史 (Mr. Masafumi Nakagaki) 他  
参加費 2009年度3,000円(1講座300円) <外国人講師料、資料代、会場費、他>  
人 数 35名(小グループ学習) 札幌市内各高校生参加  
日 程 2009年度 ① 6月20日 ② 7月25日 ③ 8月22日 ④ 9月26日 ⑤ 10月31日  
⑥ 11月14日 ⑦ 12月12日 ⑧ 1月23日 ⑨ 2月20日 ⑩ 3月20日  
2010年度 ⑪ 4月24日 ⑫ 5月22日 ⑬ 6月19日 ⑭ 7月24日 ⑮ 8月21日  
⑯ 9月25日 ⑰ 10月30日 ⑱ 11月13日 ⑲ 12月11日 ⑳

#### 高校生のための「通訳ガイド養成講座」の内容(今年の予定)

- |             |                          |               |
|-------------|--------------------------|---------------|
| 第1回(6月20日)  | 開校式・講師紹介・講座の説明           | Theme:英語で自己紹介 |
| 第2回(7月25日)  | Theme:(前回の復習) 時計台・ラーメン   | 国際交流の北海道学     |
| 第3回(8月22日)  | Theme:(前回の復習) 大通り公園(地下街) | 国際交流の北海道学     |
| 第4回(9月26日)  | Theme:サッポロファクトリー・札幌ビール工場 | 国際交流の北海道学     |
| 第5回(10月31日) | Theme:復習まとめ・フリートーキング     | 国際交流の北海道学     |
| 第6回(11月14日) | Theme:北海道の冬(生活・スポーツ)     | 国際交流の北海道学     |
| 第7回(12月12日) | Theme:お正月・北海道神宮          | 国際交流の北海道学     |

\*全体の進行状況を見て、フィールドワークなども考えたいと思います。

<内容は変更になる場合があります。>

## 事務局短信

### 2009 コンコードカーライル高校生グループ(22名)来札・・・交流を深める

マサチューセッツ州コンコードカーライル高校グループ(生徒17名、引率者5名、合計22名)が、予定通り4月16日(木)～23日(木)の日程で来道、札幌・七飯を訪問しました。札幌では、北海道庁表敬訪問、時計台・北海道神宮ほか市内観光、そして札幌デザイナー学院のアニメ作成セミナーを受講(札幌東商高・札幌白石高も一緒)しました。また、札幌東商業高校生とホームステイを通して交流を深めました。

### コンコードグループ(6名)が、2010年4月下見・打合せのため来札・・・概要決まる

2010年4月、コンコードカーライル高校プラスバンドグループ(約100名)が来札します。そのため、同校のトーマス・カーチン、アルフレッド・デンティノ先生グループ(6名)が、打合せ・下見のため、7月3日(金)～7日(火)に来札しました。札幌白石高校との打合せ・札幌市民ホール(4月15日合同演奏会予定)下見、道庁表敬訪問・北方圏センター表敬訪問、札幌市内視察などをご案内しました。来年の姉妹提携20周年記念行事として、高校生を中心とした交流行事やホームステイなど、会員の皆様のご協力もお願いしたいと思います。

### 北海道・マサチューセッツ州姉妹提携20周年記念プレ・フォーラムの開催・・・参加者募集・・・

2010年は、北海道とマサチューセッツ州が、1990年に姉妹提携を結び学術・文化・経済・市民交流などの活動を続けてきて、ちょうど20周年の節目の年にあたります。このことを踏まえて、今年から来年にかけて、いくつかの記念事業を計画しています。まず最初の記念事業として下記要領で、「プレ・フォーラム」を開催します。

日時：2009年9月17日(土 13:30～16:15 会場：道庁赤れんが庁舎会議室(札幌市中央区北3条西6丁目)

内容：シンポジウム「北海道の近代化とマサチューセッツ人脈」(佐々木晴美・中垣 正史・御手洗昭治)

特別講演「アメリカのスマートパワー政策と日米パートナーシップ」(ダーナ・ウエルトン米国総領事)

### 在ボストン日本総領事館の人事異動について

鈴木庸一在ボストン日本国総領事館総領事の後任として、2009年2月21日に辻優(つじ まさる)総領事が着任されました。外務省から防衛省に転出していたため、前職は防衛省国際関係担当防衛参事官。それ以前は、洞爺湖サミットで注目された環境問題等を担当する外務省国際協力局地球規模課題担当参事官、日本の安全保障政策を担当する安全保障政策課長、多国間条約を取り扱う条約局国際協定課課長、更に内閣府(当時)に出向し内閣法制局参事官などを歴任。海外では、マレーシア、シンガポール、ロシアの日本国大使館、ジュネーブ国際機関日本政府代表部などを歴任されました。ご趣味はクラシック音楽鑑賞、テニスなど。

来年の北海道マサチューセッツ姉妹提携20周年事業に向けて、在ボストン総領事館の広報文化担当官及び経済担当官をご紹介します。広報文化担当は、進藤康治(しんとう やすはる)領事と伊賀三夏(いが みか)副領事です。進藤領事は在バングラデシュ日本国大使館より、2007年8月20日ご着任。伊賀副領事は在チェコ日本国大使館勤務・育児休業を経て2009年4月1日に着任されました。経済担当は、町田克己(まちだ かつみ)領事と宮本純子(みやもと じゅんこ)副領事。町田領事は「HOMAS」50号でも紹介しましたが、日本貿易振興機構(JETRO)より2006年11月30日に着任されています。宮本副領事は、福岡県庁出身で、税務課、ダム建設事務所での勤務を経て、2006年4月より外務省に出向、開発途上国に対する経済協力事業に携わった後、2008年4月22日に着任されました。

### 新入会員紹介(2009年3月20日以降)

<個人会員> 秋田 益 三宅 尚隆

<法人会員> (社団法人) 北方圏センター

### 2010年は、北海道とマサチューセッツ州の姉妹提携20周年です！



(图中F+3/F12)

## 北海学園大学大学院

HOKKAI-GAKUEN UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL

- 経済学研究科 / 経済政策専攻
- 経営学研究科 / 経営学専攻
- 法学研究科 / 法医学専攻・政治学専攻
- 文学研究科 / 日本文化専攻・英米文化専攻
- 工学研究科 / 建設工学専攻・電子情報工学専攻
- 芸術学研究科 / 芸術専攻  
(芸術大学院)

## 北海学園大学

HOKKAI-GAKUEN UNIVERSITY

- 経済学部1部・2部 / 経済学科・地域経済学科
- 経営学部1部 / 経営学科・経営情報学科  
(2部) / 経営学科
- 法学部1部・2部 / 法医学科・政治学科
- 人文学部1部・2部 / 日本文化学科・英米文化学科
- 工学部1部 / 社会環境工学科・建築学科・  
電子情報工学科

## 北海高等学校

HOKKAI HIGH SCHOOL

- 普通科 / 特別進学コース・進学コース

## 北海商科大学

HOKKAI SCHOOL OF COMMERCE

- 経済学部 / 経済学科・観光産業学科

## 北海学園札幌高等学校

HOKKAI-GAKUEN SAPPORO HIGH SCHOOL

- 普通科

学校法人北海学園 理事長 森本正夫

T062-0911 札幌市豊平区朝陽4丁目1番40号 社/O11841-1161(代表) <http://www.hokkai-t-u.ac.jp>